高等学校防災教育推進全体計画（例）

生徒の実態

地域の特性

学校目標

防災教育の目標

・安全で安心な社会づくりの意義や様々な自然災害の特徴、災害の歴史等を理解するとともに、自然災害から自他の生命を守るために必要な知識や技能を高める。

・災害による危険を回避するために必要な情報を収集し、自他の安全状況を適切に評価するとともに、適切に意思決定したり、主体的に行動したりする力を養う。

・地域社会の一員として、地域の安全活動への積極的な参加する等、安全で安心な社会づくりに貢献しようとする態度を育てる。

・人間としての在り方生き方を考え、生命を尊重する心を育成するとともに、他者に対する思いやりや助け合いの心、ボランティア精神等を養う。

|  |
| --- |
| 推　進　の　視　点 |
| 防災体制の整備充実 | 兵庫の防災教育の推進 | 指導力・実践力の向上 |
| ・教職員のみでの訓練等による役割の明確化と連携の強化・家庭や地域及び関係機関との連携・学校の実情と様々な自然災害に対応する災害対応マニュアルの整備・日常の安全管理と避難経路等の点検 | ・教育活動全体を通じ、教科を横断した防災教育の推進・防災教育副読本等の活用・生徒個々の状況に応じた心のケアの充実・家庭、地域と連携した効果的な防災訓練等の工夫・実施 | ・教職員の危機管理能力、防災リテラシーや応急処置能力の向上・防災体制（教職員の訓練実施を含む）、防災教育、心のケア等に関する校内研修の充実・防災教育のカリキュラム・指導方法・指導内容の研究・見直し |

|  |
| --- |
| 各　学　年　の　目　標 |
| １年 | ２年 | ３年 |
| ・地域の災害事例を踏まえ、災害発生のメカニズムの基礎や様々な自然災害の特性を知ることにより、日常の備えや災害時の助け合いの大切さを理解できるようにする。・日常生活の中で災害時の危険を予測し、自他の安全のために主体的に行動できる力を養う。・地域の活動に参加することにより、地域の安全に貢献しようとする態度を育てる。 | ・安全で安心な地域づくりの意義や、地域の自然環境の特徴、過去に生じた災害の規模や頻度等、地域の様々な安全上の課題を理解できるようにする。・過去の自然災害で得た教訓を踏まえ、身の回りの安全状況を適切に評価するとともに、安全な生活を実現するために防災対策や備え等について主体的に考えられるようにする。・地域社会の一員として、地域の安全活動へ積極的に参加し、安全で安心な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。 | ・過去に起きた様々な災害等を検証する連携ことにより、地域社会やこの国の様々な安全上の課題を踏まえ、安全で安心な社会づくりの意義を理解できるようにする。・自他の安全状況を適切に評価し、より安全な生活を実現するために防災対策や備え等について主体的に考え判断し、行動することができるようにする。・地域社会の一員として、地域の安全活動へ積極的に参加し、安全で安心な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。 |
| ・国や地域の防災体制の仕組みや防災対策、防災に関する国際貢献等についての理解を図る。・心肺蘇生等の応急手当の技能を高め、状況を適切に判断し速やかに行える力を養う。・阪神・淡路大震災の経験や教訓を踏まえ、生命に対する畏敬の念や共生の心を育み、被災地支援等のボランティア活動に積極的に参加する等、社会の一員として主体的に行動できるようにする。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 各　教　科 |  | 特　別　活　動 |  | 総合的な探究の時間 |
| ・科学的思考力・判断力・災害発生のメカニズム、地域の災害特性、地域での支え合い、防災体制等の知識・国や地域の防災体制の仕組みや防災対策、防災に関する国際貢献等についての知識・様々な場面に応じた危険の予測や回避、避難の仕方や災害への備え・心肺蘇生等の応急手当 | ・日常的な備え、災害時の安全確保、的確な判断や実践的な行動・互いに協力し合い、自ら困難を克服する力・災害発生時の避難所の役割や自主組織の活動に参加する意義・自主性やボランティア精神及びやさしさや思いやりの心を育成する活動・生命の尊重、差別意識の解消、多文化共生等人権尊重の精神・やさしさや思いやりの心・互いに励まし合い高め合う仲間づくり・集団生活における自分の役割や責任の自覚・人としてよりよく生きること | ・ボランティア精神及び実践的態度を育成する活動・地域の災害の歴史や防災体制について問いを見いだし情報収集し、安全で安心なまちづくりの実現に向け主体的・共同的に取り組む探究的な学習 |